

## 行けばわかるだろう

お父ちゃんの古くからの友達と言うことで、母が電話した。一時前に来てくれとの事だった。一時からは予約のお客さんが来るので、その前に、わざわざ、昼食時、見てくれるとのことだ。

「ええ、人やかなあ。」と僕はお母ちゃんに言うた。

「そうや、昔、お父ちゃんのお父ちゃんが、よく面倒見て、世話したご兄弟や。」

小さい時から、吉田の二人兄弟は、

よくできる真面目な子として、

村では、有名だった。

二人とも医者にならあった。

一人は衣笠病院の先生で、

この人は、自分で歯医者やってやるんや。」

と、母は言った。

貧しいながらも頑張って医者になって今は押しも押されもせんようになってるそうさ。

京太に地図を書いてもらった。

京阪三条からでは行くのが不便。

市電の方が便利さようさ。

僕は、常着（つねぎ）のまま、母から百円、自分の机の引き出しから二百円出し、家を出た。十二時前だった。

お母ちゃんは、五十八分にバスがあるので、「それで行き」と僕に言った。